

【上伊那圏域連携サポート会議反省の概要】

- ①サポート会議で上伊那における他分野連携「支援会議」という全体テーマ設定はよかったという意見が大多数だった。
- ②AM支援会議A～Cでは、支援会議で統一され、視点を変えた3設定がよかったという多意見。A:TK Bバンドへの感激の声と発想の転換。B:圏域の連携支援ベクトル。C:モデル会議:一人の子へ他分野が寄り添う良さと可能性。
- ③PM分科会1～5では、他分野で情報交換できた良さ。内容・進め方では、更に工夫する(内容精選, 分野・人数調整, 進行方法等)ことで、より深まる可能性の意見あり。親の会の参加の良さと、設定による個人情報に関わるルール作り。
- ④会場が「いなっせ」はよいという意見が大多数。(伊那養会場から初変更)
- ⑤期日設定については多くの意見は寄せられなかった。多分野による連携支援というかみとくれんの意識ベースから、平日ではなく土曜日設定は必然であるという方向と考えられる。また、上伊那圏域の他の企画設定からも、7月後半定位置か。
- ⑥役割分担。教育主導→分担:各分野の受け持ちやすさ。教育分野も次代への引継ぎ。
- ⑦日程は、AM全体会(圏域の課題・連携についてベクトルを示すことができるように)
PM分科会(小グループで現在の課題・連携について情報共有や学習・研修会等)
- ⑧次年度の方向として、もう一度「支援会議2」でより具体を設定、縦の連携にテーマ「ライフステージ」、福祉や行政が参加できる内容設定、著名分野の講演(日詰正文, 上野一彦, 高山恵子, ヘネシー澄子等)。分科会の新構成(研修・学習会的内容等)

◆H29サポート会議の方向・予定

※1と4を決めて、2と3を年度末(理事会)までに決めていく方向か?

1 会場・期日

<1案> ・会場:いなっせ 全館

・期日:7月21日(土) ※7月下旬:次年度はいなっせがこの日しか取れなかった

<2案> ・会場:小中学校(または伊那養) 会場

・期日:7月28日(土)

2 日程 午前:全体会(研修会 or 講演会 or パネル討議 形式)

午後:分科会(課題別・分野別形式 or 学習・研修会形式)

【各組織の経過報告】

○特支委員会

- ・教育課程研究協議会の午後の講演会が好評だった。来年度も教育分野ではない方の講演も視野に。
- ・分科会は時間が短かったが、分科会のニーズもあるので、来年度は日程も含めて検討していく。
- ・なかよし作品展が11月3日(金)～7日(火)まで、いなっせ2階ギャラリーにて開催。

○特支研

- ・ホームページを立ち上げて情報発信していく。

○多様な学びの場連絡会

- ・授業公開をして、小・中・高の連携を大切にしていく。特に高等学校の特別支援教育の充実へサポートしていく。

○中高コーディネーター会

- ・11月10日(金)に東部中学校で授業公開。

○院内学級連絡会

- ・11月14日(火)にこころの医療センター駒ヶ根で連絡会開催予定。

○医療

- ・11月24日(金)18:30～いなっせ6階にて症例検討会。
- ・12月13日(水)18:30～伊那文化会館小ホールにて、本田秀夫先生による講演会。

○福祉

- ・長野県発達障がい者支援対策協議会を受けて、喫緊の課題は学校現場でのLD支援。
- ・県教委に向けて「発達障がいの専門知識を持ち、支援をリードする教員」を15教育圏域に配置する提言を検討中。

【分散会】

○分野ごと、今年度の振り返り・現状と課題について

- ・地域の課題を地域で解決していかれるために、他機関連携・同職種の連携
- ・より円滑な連携のために
- ・より支援力が向上していくように